

令和6年度 津幡町立津幡中学校 学校評価 <中間評価>

1回答…より肯定的回答

1+2回答…肯定的回答

重点事項	内容	評価の観点 【】生徒、保護者、教職員アンケート	達成度判断基準 (1回答・1+2回答)	判定			
				1	%	1+2	%
1 学力向上	(1) 授業力向上	【生】授業の中で、自分の考えを持ちこたえてきている。 【教】授業中に、生徒を褒めたりアドバイスをしたりしている。 【教】生徒の様々な考えを引き出ししたり、思考を深め	A 40%・85%以上 B 35%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	A A D	52 61 18	A A A	90 100 89
	(2) ICT機器等の活用 ★町共通	【教】生徒が一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用した授業を行っている。	A 50%・80%以上 B 40%・70%以上 C 30%・60%以上 D 30%・60%未満	D	25	C	71
	(3) 家庭学習の充実	【生】自分で計画を立てて勉強している。 【保】わが子の家庭学習の状況を把握している。	A 60%・90%以上 B 50%・80%以上 C 40%・70%以上 D 40%・70%未満	D D	31 23	D C	67 79
<評価>	・授業改善の取組が進んでおり、教師・生徒アンケートともに数値が向上している。ICT機器使用の数値は減少したものは、研究の重点項目から外れたことで、必要性に応じて効果的だと判断した場面のみで利用しているため、数値が減少したものと考えている。家庭学習の充実に関しては、今後も継続的な取組および家庭への呼びかけが必要不可欠であると考える。						
2 生徒指導の充実	(1) あいさつの定着	【生】家庭や地域で自分からあいさつしている。 【教】家庭や学校でしっかりあいさつすることを指導している。	A 80%・95%以上 B 70%・90%以上 C 60%・85%以上 D 60%・85%未満	D D	56 46	A A	95 96
	(2) 無言清掃の徹底	【生】無言清掃に取り組んでいる。	A 50%・90%以上 B 40%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	B	40	B	82
	(3) 人間関係づくり	【生】学校へ行くのが楽しい。 【生】学級では安心して過ごすことができる。 【教】生徒間や教師との人間関係が温かなものになるよう、学年・学級の充実に努めている。	A 60%・95%以上 B 50%・90%以上 C 40%・85%以上 D 40%・85%未満	B B A	53 55 61	C B A	89 93 100
	(4) いじめの根絶	【生】いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	A 90%・95%以上 B 80%・90%以上 C 70%・85%以上 D 70%・85%未満	C	71	A	95
<評価>	・挨拶については、昨年よりも同時期に比べ、全体の数値は向上した。しかし、第一の選択肢の数値が低下しているため、教師自らが範を示しながら、挨拶の大切さや意義を生徒に粘り強く伝え続けたい。 ・人間関係づくりにおいて、安心して過ごせると回答した生徒の数値は向上したが、いじめ根絶の数値が低下している。安全・安心を基盤として暖かな人間関係づくりを継続しながら、いじめ根絶に繋がる取組を学校全体で行いたい。						
3 信頼される学校づくり	(1) たより、HPの充実	【保】学校は子どもや学校の情報提供を適切に行っている。 【保】学校からの情報(たより、HPなど)をよく見ている。	A 70%・90%以上 B 60%・80%以上 C 50%・70%以上 D 50%・70%未満	D D	41 34	A B	91 82
	(2) 小中連携した英語教育 ★町共通	4技能を3年間で系統的に育成できているかの指標の一つとして、3年生時の英検3級以上の取得者数を追跡調査していく。	A 3級以上 35%以上 B 3級以上 30%以上 C 3級以上 25%以上 D 3級以上 25%未満				
<評価>	・保護者からホームページが充実をしているとのコメントをいただく機会もあるが、アンケートの数値は昨年度の同時期と同程度である。今後も学校の教育活動について保護者、地域への情報発信に努めていく。						
4 教員の人材育成	(1) 若プロ	【教】若プロ研修の内容が充実している。(ミニOJT研修、メンターとの懇談等)	A 70%・90%以上 B 60%・80%以上 C 50%・70%以上 D 50%・70%未満	C	53	A	100
<評価>	・若手教員が自らアドバイスを求める姿勢を、今後も大切にしていきたい。						
5 多忙化改善に向けた取組の推進	(1) 時間外勤務の縮減 ★町共通	【教】時間外勤務時間が80時間を超える教職員の割合 ※学期ごとの割合で評価	A 1学期35%以下 2学期25%以下 B 1学期40%以下 2学期30%以下 C 1学期45%以下 2学期35%以下			4月 … 23% 5月 … 12% 6月 … 15% 7月 … 6%	
<評価>	・昨年度の同時期と比べると、80時間を超える教職員の割合は減少している。超過勤務の教員の固定化が見られるので、業務の進捗状況等を注意深く見守りながら、指導・支援に努めていく。 ・学校の業務改善が始まり数年が経つが、現場の業務削減には限界を感じている。今後、さらに業務を精査し、また可能な限り平準化を図るなど、多忙化・多忙感を軽減する取組を行いたい。						